

令和2年1月20日

1月の木材価格・需給動向

1. 国産材(北関東)

栃木県では好天が続き、原木生産、入荷も11月末から12月年末にかけて順調である。間伐材、小径木の荷動きも良い。スギ、ヒノキ材とも全般に順調な荷動きであるが、とくにスギ4.0m母屋材の引き合いが強く、高値で推移している。スギ、ヒノキの柱物、中目は小幅安となっている。

群馬県では年末から年明けにかけて、積雪が例年より少ないせい、出材は多く集荷は容易である。スギ、ヒノキ原木価格は下落傾向にある。工場土場の在庫は一気に増え満杯となり、未引取の材もある。製材量は回復しているものの、注文が細かく生産性が落ちている。依然として地場需要は低調で、製品在庫は増加傾向にある。製品価格は低位安定で推移している。

2. 米材

カナダ沿岸部の大手製材企業で原木供給大手でもある Western Forest Products 社のストライキは2019年内に終結せず、現在も継続中である。また私有林保有の最大手の MOSAIC 社も11/25から伐採を停止しており、再開の具体的な日程は公表されていない。このためカナダの港頭在庫はほぼ払底状態で、需要が米国側にシフトし、米国の港頭在庫も急激に減少している。産地輸出価格は10月比で\$30~40/千SC程の上昇となっている。製品市況について、ランダムレングス紙発表の15種平均価格(1/3)は\$375/Mで、11月末に比べ同等。米国内の需要は回復傾向にあるが、価格は伸び悩んでいる。

11月の原木入荷量は117千 m^3 と2019年最少の入荷となった。1~11月累計で2,177千 m^3 (前年同期比9.0%減)。出荷量は146千 m^3 と低調。1~11月累計は2,189千 m^3 (同9.3%減)、在庫は154千 m^3 と1ヵ月割れが続いている。国内の米材製材工場の稼働は引き続き順調である。競合品である欧州産RW集成平角の2020年第1・四半期の価格は反転上昇となり、米マツ平角価格も現状価格で底打ちとなる模様である。東京木材埠頭の11月入荷は16千 m^3 (前月比3.7%減)、出荷は17千 m^3 (同8.6%減)、在庫は37千 m^3 (同4.8%減)。

3. 南洋材

サラワク州では本格的な雨季入りで原木生産は低調だが、各国からの引き合いは弱く、価格に大きな変動はない。PNGでは2020年からの原木輸出禁止

策は閣議で先延ばしされたが、代わりに輸出税を1月1日から現行の35%から59%に増税する案が決定された。しかし林業業者などの反発により増税案を白紙に戻す動きがあり、恐らく増税案も延期される模様である。原木マーケットは政府と業者間のやり取りを静観している状況である。1月原木入荷予想は約10千 m^3 。フリー板の市況が非常に悪く、生産調整に入っている。

4. 北洋材

産地では冬伐り材が工場に入荷し始めたが、依然カラマツが多く、良質アカマツ原木は増えてこない。大手各社は対日向け野縁供給量を維持するため、小径木を混ぜざるを得ない状況。極東大手原木シッパーの2020年原木輸出枠は昨年並みの数字になった。各シッパーはアカマツ上級グレードの\$550水準を維持しようとしているが、日々高値警戒感が強まっている。冬伐り丸太の入荷によりシッパーはアカマツ原板の売腰を強めているが、日本の買い気は慎重である。ピークから\$15程度下がっている。東京、川崎への順調な入荷で、アカマツ野縁(30×40)の不足感は払拭された。国内各社の原板在庫は十分あり、DIY向けの荷動きは引き続き好調だが、従来ルートは若干落ち込んでいる。1月予想の原木入荷・出荷とも8千 m^3 、在庫は15千 m^3 。製品入荷量(東京+川崎)は22千 m^3 、出荷23千 m^3 、在庫38千 m^3 。

5. 合板

合板用原木について、東北のカラマツは高値張り付きのまま、スギは出材が徐々に回復傾向にある。ロシアのカラマツ材は横ばい推移。米材は一部伐採を中止していた地域があったため、少しタイトな状態になっている。南洋材は雨季に入っていることもあり、出材は限定的である。

11月の国内合板生産量は29.0万 m^3 と高水準となった。うち針葉樹合板は28.0万 m^3 、出荷量は28.8万 m^3 となり、在庫量は11.9万 m^3 である。うち構造用合板の在庫は9.0万 m^3 と低水準となっている。針葉樹合板の価格は10月以降、活発な荷動きが続いている影響でメーカー在庫が少ないこと、冬場は生産が落ちることから少しずつ引き締まっている。輸入合板は年末に少し需要があった程度に収まった。価格は下げ止まり以降上がらず、横ばいの状態。11月合板輸入量は21.6万 m^3 と低水準のまま。マレーシア産は前月より増えたが、依然として少ない。インドネシア産も低水準の入荷が続いている。インドネシアでは伐採地からの原木輸送が困難な状況となっており、各工場とも最低限の原木在庫になっている。マレーシアでは各工場とも減産体制にあり、原木在庫量も減少傾向にある。

6. 構造用集成材

1月のラミナ入荷は12月に少なかった分が入港する予定。12月のフィンランドの製材工場のストライキ、6日間のロックアウトについて、国内集成材メーカーへの影響は少ない見込み。第1・四半期交渉でRW平角は小幅の値上がり、WW管柱は前回比横ばいで決着。大手サプライヤーはRW平角400~410ユーロ/m³で供給は30%前後に絞っている。中欧でWW原木の虫害が深刻化しており、被害木の処理が追い付いていない。今年も被害拡大が予想され、原木確保が難航する見込み。ラミナ供給が滞れば、集成材生産への影響も懸念される。

7. 木材チップ

針葉樹原木の入荷量は例年並み、広葉樹原木は国交省河川伐採事業により出材が多い。製紙用チップは年末年始から1月末にかけての定期修理により消費量は減少し在庫量が多い。燃料用チップも相変わらず在庫量が多いが、建廃を主原料とした大型バイオマス発電所が稼働し、出荷量も徐々に回復傾向にある。チップ、原木ともに運転手不足で物流、生産に支障が出ている。運送できる分しか生産出来ない状況が続いている。

8. 市売問屋

毎年、年末になると市況が上がっていたが、今年は静かな動きである。市場に活気が見られず、国産材、外材構造材の荷動きは少ない。米ツガ注入土台が不足し、樹種の変更が見られる。スギ、ヒノキの造作材の動きも悪くなっている。カナダのストライキの影響により米ツガ積層材(25mm)が不足している。

9. 小売

木材、建材とも12月に入って勢いは感じられない。年明けも先行き不透明な状況。スギ、ヒノキ構造材に大きな変動はない。スギは土木用のバタ角の動きが良い。外材では米ツガ90角、105角にやや品薄感があるが、国産材で代替。欧州材は全体に需給バランスが取れており、品薄感はない。ロシア材は相変わらず3m、30×40の品薄感が続いており、価格は強含み。国内挽き米ツガ割物のお荷は一段落した。米ツガのフリー板のお荷遅れでサイズによっては不足感が出ている。価格も強含み。国産材針葉樹合板の荷動きは好調を維持しているが、流通の影響でお荷が遅れ気味。災害の影響か輸入合板に動きが見られ、価格は強含み。

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米材	丸太	→	→	→
	製材品	→	→	→
北洋材	丸太	↗	↗	→
	製材品	↗	↗	→
南洋材	丸太	↘	→	↘
	製材品	→		

矢印の表示は今月に対する翌月の動向を、下記のように示したものである。

- ↑ 急増・急上昇
- ↗ 増加・上昇
- 横ばい
- ↘ 減少・低下
- ↓ 急減・急落

2. 合板供給量

国内製造量	輸 入 量		
	計	インドネシア	マレーシア
→	↗	↗	↗

3. 価格動向

樹材種	形 状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材 (3m) 2等	→
			スギ中丸太 (3.65m) 2等	→
			ヒノキ柱材 (3m) 2等	→
			ヒノキ中丸太 (4m) 2等	→
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
			スギ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ間柱 (KD) 10.5×3.0×3m 特等	→
			スギ加工板 1.3×18.0×3.65m 特等	→
			スギタルキ 3.0×4.0×3.65m	→
			ヒノキ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
ヒノキ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	→			
ヒノキ土台角 12.0×12.0×4m 特等	→			
米材	丸太	産地価格	米マツ ISタイプ	↗
		国内卸売価格 (京浜・オントラ)	米マツ ISタイプ コースト	↗
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き) (国内挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角 (KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	→
			米マツ桁角 (GR) Std&Btr S4S 4・1/8" 13'	→
			米ヒバ土台角 (GR) Std&Btr 4・13/16" 13'	↘
米マツ平角 (KD) 特等 10.5×24.0×4m	→			
南洋材	丸太	産地価格	メランティレギュラー	↗
		東京・水面筏 渡し価格	メランティレギュラー 60cm上、4m上 製材用	→
		メランティレギュラー 60cm上、4m上 合板用	→	
	製材品	産地価格	ホワイトセラヤ 平割 (サバ州産)	↗
東京・問屋店頭 渡し価格		同上2.4cm×込み×4m 定尺1等	→	
北洋材	製材品	国内卸売価格 (京浜・オントラ)	アカマツ (KD) 30×40上級	→
			アカマツ (KD) 16×40上級	→
欧州材	製材品 (現地挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 間柱 2.7×10.5×3m S4S FOHC	→
			ホワイトウッド ラミナ 2.4×11.0×3m上 ラフ乱尺	→
集成材	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 無化粧 JAS 5プライ	→
			スギ 無化粧 JAS 5プライ	→
	欧州産	//	10.5×10.5×2.98m	→
合板	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6	→
			タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	→
			型枠 12.0mm厚 3×6	→
			針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	→